

# 序

多くの神経放射線診断学の教科書がすでに世にあるなかで本書を企画した。

その背景には、とりわけ和書において知識習得の目的で読み進んでも掲載されている画像がきわめて典型的なもののみで幅に乏しいという傾向がみられることがあった。実際の読影室での日常を思い浮かべていただければ、日々の読影ではそうした典型例に出会うことは必ずしも多くはないことに多数の方々から同意をいただけると思う。その理由として、ある病態がさまざまな要因によって多彩な所見を示しうるのに対し、これまでの書籍が文字での記述に重きを置き、紙幅や記述のスタイルの制限のために画像の掲載に十分対応できていなかったことをわれわれは考えた。実はすでにある程度このようなコンセプトで鑑別診断の項にも画像を含めたものとして本書の編者の一人の土屋が共編した『できる！画像診断入門 頭部画像診断のここが鑑別ポイント 改訂版』（羊土社刊、2011年）があるが、本書はこれを格段にパワーアップし、鑑別診断の対象疾患のみならずピットフォールになりそうな所見なども含めて提示画像のバリエーションを大幅に拡げるものとした。

このように本書は掲載画像の数が豊富なことが最大の特色である。幸いにしてわれわれ編者の意図を汲んで執筆の先生方からは多数の貴重な症例の画像を含めた原稿をいただくことができた。これによって本書が画像診断の力をつけようとする比較的若手の読者にとってより実践的な頭部の画像診断の知識を備えてもらえるものとなるだけでなく、幅広いレベルの放射線科医の読影を強くサポートするものとなることも確信している。さらにはこの内容は関連臨床科の先生方の画像の解釈においても有益なものになると考えている。

最後になりますが、多忙な日常業務のなかで執筆にご協力いただいた諸先生方ならびに企画・編集に携わっていただいた羊土社編集部の嶋田達哉氏、伊藤慶子氏、中林雄高氏にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

2014年3月

土屋一洋  
山田 恵  
森 壘